



Emergency Watch

No.67 Jul. 2016

神戸こども初期急病センター

2016年6月受診者数

1816人



【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎	: 535人
2. 感染性胃腸炎	: 277人
3. 感冒	: 137人
4. 気管支喘息・喘息性気管支炎	: 126人
5. じんま疹	: 81人

梅雨の合間に気温の高い日もあり、暑い夏がやってきました。夏休みに海外旅行を予定されている方もいらっしゃると思います。リオのオリンピックも近づき、ジカウイルス感染症についての関心が高まっています。今回はジカウイルス感染について記載します。



ジカ (Zika) ウイルスとは? ジカ熱とは?

ヤブカ属の蚊が持っているジカウイルスが、ヒトを刺し吸血することにより人体内に感染し発症する感染症がジカ熱です。ジカウイルスはデングウイルスと同じタイプのウイルスであるため、デング熱に症状が似ていますが、デング熱に比べると症状は軽いようです。

ジカ熱の流行は?

ジカ熱は昔からある病気で1947年に見つかっています。日本での流行はありませんが、最近ではフランス領ポリネシアで2013年に1万人も感染した報告があるようです。WHOによると、2015年ごろより中央～南アフリカ大陸など20以上の国で感染が報告されているようです。日本での大流行はありませんが、日本ですでに外国の渡航者から10例も報告されています。

ジカ熱の症状は?

潜伏期間は3日間から12日間とされています。ジカウイルスに感染しても、症状の出ない方が約8割います。軽度の発熱、発疹、関節痛・関節炎、結膜の充血が多くみられ、筋肉痛・頭痛、目の痛みなどもあるようです。その他にめまい、下痢、腹痛、嘔吐、便秘、食欲不振などをきたすという報告もあり、症状は様々で、特に小児では診断がわかりにくいようです。中には神経が麻痺するような重篤な症状を来す報告や、妊婦が感染すると胎児の頭の発育が止まり、小頭症といわれる赤ちゃんが産まれる話はよく耳にします。一般的には一過性で自然に治りますが、免疫力の弱い方に感染すると命にかかわることもあるようです。

どうやって診断してもらうの?

もし、流行地への渡航歴がある場合や、蚊に刺された後に疑わしい症状がある場合は、保健所に連絡し指示を仰ぐのが良いでしょう。診断は病院などではなく、保健所や衛生研究所で、患者さんの血液からウイルスの有無を診断する方法や抗体の検査を用いてなされます。

治療法は?

ジカウイルスを殺す薬やワクチンなどはまだ開発されていません。症状に対し、解熱剤や痛み止めを服用する以外にありません。一番大切なのはヤブカに刺されないよう気をつけること、また、流行地への渡航を控えることしかありません。もし流行地への渡航をされた場合は、二次感染を防ぐためにも献血なども控えるべきだとされています。刺されないために注意することは、明るい色の服を着る、虫除け剤 (DEET配合が推奨) の使用、そでの長い服を着る、などが望ましいですが、特に乳幼児ではDEETの過剰な使用は控えるべきとされていますので、蚊に刺されやすい場所を避け、流行地への渡航を控えることが大切です。

参考資料: 国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページ